

令和6年度 野生動物救護実績について

自然環境保全センター（厚木市七沢）では、県民の皆様によって救護され、運び込まれた傷病鳥獣（傷ついたり弱ったりしている野生の鳥類や哺乳類）を収容して治療し、野生に返す（放鳥、放獣）仕事を行っています。

令和6年度の野生動物救護の実績をお知らせします。

1 令和6年度の鳥類・哺乳類救護状況

区 分	種 類	数（頭、羽）	数 の 割 合
鳥 類	43	199	95.2%
哺乳類	3	10	4.8%
合 計	46	209	100.0%

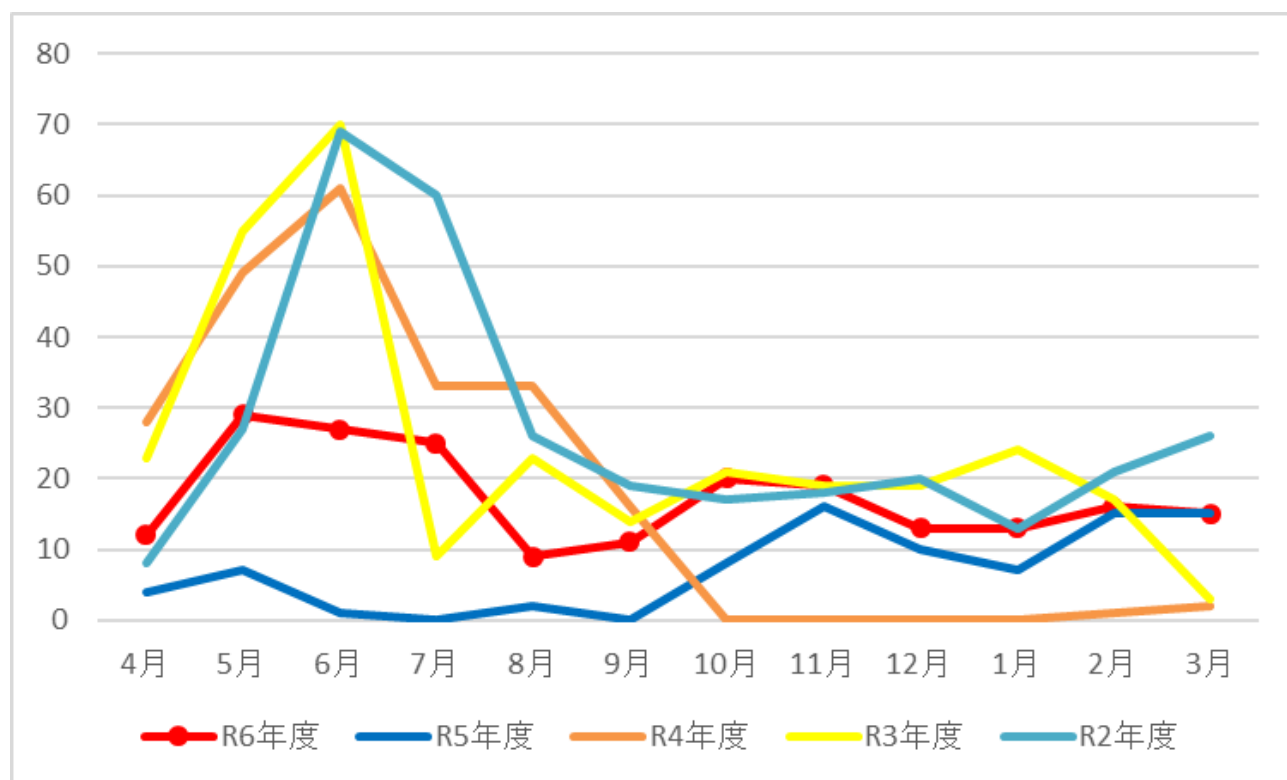
参考（過去5ヵ年の救護状況）

(1) 年度別救護数

年度別	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度	
鳥 類	199	(12)	68	(6)	208	(7)	270	(9)	280	(22)
哺乳類	10	(0)	17	(0)	15	(0)	27	(1)	44	(3)
計	209	(12)	85	(6)	223	(7)	297	(10)	324	(25)

*（ ）はへい死体で持ち込まれたもので、内数

(2) 月別救護点数



(3) 救護数上位 10 種

年度別	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	種 名	頭、羽	種 名	頭、羽	種 名	頭、羽	種 名	頭、羽	種 名	頭、羽
1	スズメ	27	タヌキ	15	ツバメ	46	スズメ	46	ツバメ	33
2	キジバト	26	メジロ	8	スズメ	37	キジバト	35	スズメ	33
3	ツバメ	18	キジバト	7	キジバト	22	メジロ	18	キジバト	29
4	ヒヨドリ	14	ヒヨドリ	7	ムクドリ	13	ムクドリ	18	ムクドリ	26
5	イソヒヨドリ	11	イソヒヨドリ	6	タヌキ	11	シジュウカラ	16	シジュウカラ	24
6	ハクセキレイ	11	スズメ	5	シジュウカラ	10	ツバメ	16	タヌキ	23
7	シジュウカラ	10	シジュウカラ	3	メジロ	9	ヒヨドリ	16	アブラコウモリ	17
8	メジロ	9	カンムリカイツブリ	2	トビ	8	タヌキ	16	ヒヨドリ	16
9	ムクドリ	8	コアホウドリ	2	ハクセキレイ	8	イソヒヨドリ	11	メジロ	14
10	タヌキ	8	フルマカモメ	2	ヒヨドリ	6	カルガモ	9	トビ	7
			フクロウ	2						
			ウグイス	2						
			シロハラ	2						
			ツグミ	2						
			ムササビ	2						

(4) 放野率・死亡率（％）

	令和6年度			令和5年度			令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他
鳥 類	43.3	51.3	5.3	35.5	46.8	17.7	39.8	60.2	0.0	43.3%	51.3%	5.3%	41.1	45.7	13.2
哺乳類	30.0	60.0	10.0	47.1	41.2	11.8	13.3	80.0	6.7	42.2%	51.3%	6.5%	47.4	50.0	2.6
全 体	42.2	51.3	6.5	38.0	45.6	16.5	38.0	61.6	0.5	42.2%	51.3%	6.5%	41.9	46.3	11.8

*各年度の3月31日時点（へい死体除く）

*その他は治療中・終生飼養・長期飼養に移管したものなどを含む。

2 令和6年度の特徴

全体の救護原因の内、建物への衝突などといった、主に人間が関わっている救護原因は 50.7% です。

- * 前年度～2024 年 6 月 2 日までと 2024 年 10 月 4 日～ 高病原性鳥インフルエンザ感染予防の観点から各横浜市立動物園では鳥類の受入れを休止しています。(通年で猛禽類・ガンカモ類を休止しています)。
- ** 前年度～2024 年 6 月 2 日までと 2024 年 10 月 21 日～ 高病原性鳥インフルエンザ感染予防の観点から川崎市立夢見ヶ崎動物公園では鳥類の受入れを休止しています。
- *** 7 月 14 日～ 横浜市立野毛山動物園では獣類の受入れを休止しています。
- **** 2025 年 1 月 17 日～22 日、神奈川県自然環境保全センターで受入れ許容量の関係で休止しました。

(鳥 類)

- ・保護された鳥類の内、スズメ・キジバト・ツバメなど人間の近くで繁殖・生活している種類が上位を占めています。
- ・保護された鳥類の内、粘着剤の保護件数が多いです。

(哺乳類)

- ・保護された哺乳類の内、タヌキの交通事故と疥癬症の件数が多いです。

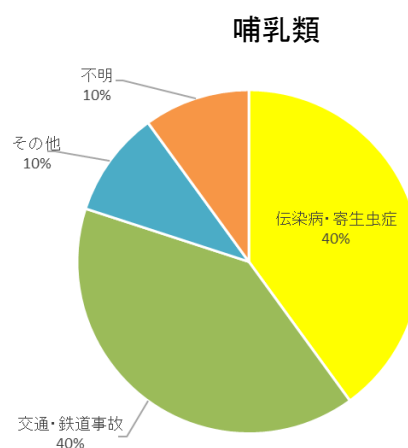
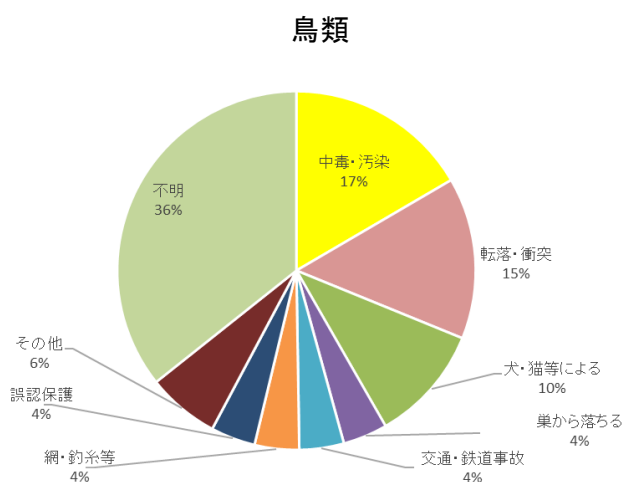


フクロウ（粘着剤）



ヒドリガモ（4 例目）

参考（令和6年度の保護原因）



3 ボランティアの活動

- ・当センターには野生動物の飼養や治療・リハビリの補助、環境教育や普及啓発活動等を行っている多くの野生動物救護ボランティアの方々がいらっしゃいます。
- ・野生動物救護ボランティアには一般ボランティア（注1）、短期飼養ボランティア（注2）および長期飼養ボランティア（注3）があります。令和6年度の一般ボランティアの活動人数は年間延べ 256 人で、毎年多くの方々にご参加いただいています。また、長期飼養ボランティアに新たに飼養を依頼した野生動物の数は0件になります。

注1 一般ボランティア

当センターに保護されている鳥獣のお世話や救護動物特別公開などの普及啓発活動を行っていただいております。（令和6年4月より一部の活動を再開しました）

注2 短期飼養ボランティア

主に、毎年5月から8月くらいまでの間、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリなど主に巣立ち前の野鳥のヒナ等のお世話やすぐに放鳥・放獣できない動物のリハビリ訓練などを行っていただいております。

注3 長期飼養ボランティア

翼が折れているなどの理由により野生に返せない鳥獣を、生涯にわたり飼養を行っていただいております。

参考（過去5年間のボランティア活動状況）

(1) ボランティア登録状況

（人）

年度別	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ボランティア登録数	99	107	129	132	146

*ボランティア登録数は、各年度の3月31日現在

(2) 一般ボランティアの年度別活動状況

（延べ人数）

年度別	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
活動延べ人数	256	153	340	633	690

(3) ボランティアへの飼養依頼

（件）

年度別		令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
鳥 類	短 期	0	0	0	1	0
	長 期	0	0	0	0	3
哺乳類	短 期	0	0	0	0	0
	長 期	0	0	0	0	0
合 計	短 期	0	0	1	1	0
	長 期	0	0	0	1	3
総 計		0	0	1	1	3

*各年度新たに依頼した分のみ掲載